



Photostud

THE IRELAND TROPHY

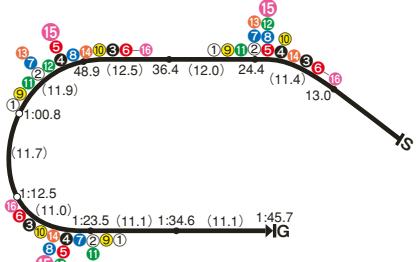
第1回 アイルランドトロフィー (GII)

1着	2着	3着	4着	5着
本賞 55,000,000円	22,000,000円	14,000,000円	8,300,000円	5,500,000円
付加賞 1,134,000円	324,000円	162,000円		



レース映像は
コチラでご観
る

牝、3歳以上、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 3歳53kg・4歳以上55kg・2024.10.15以降G I 競走1着馬2kg増、G II 競走1着馬1kg増、2024.10.4以前のG I 競走1着馬1kg増(ただし2歳時の成績を除く)



通過タイム : 600ミル 800ミル 1000ミル 上り : 800ミル 600ミル

アラカルト

- ・岩田望來騎手はJRA重賞本年5勝目、通算17勝目
- ・中村直也調教師はJRA重賞本年初勝利、通算4勝目
- ・シリバーステート産駒はJRA重賞通算7勝目
- ・ラブマン(父アリババ)女王杯(GⅠ)に優勝出走できる

单購⑤200円(4人)、複購⑤220円(3人)、⑥400円(6人)、⑦280円(5人)、特典⑤⑥⑦1,220円(6人)

単勝15700円(4人気) 複勝15230円(3人気) ②400円(6人気) ⑦280円(5人気) 枠連①-⑧1,370円(6人気) 馬連② 154,690円(18人気) ロイド② 151,440円(16人気) ⑦ 15880円(10人気) ③ ⑦1,570円(19人気)

馬連②-154,690円(18人気) ワイド②-151,440円(16人気) ⑦-15880円(10人気) ②-⑦1,570円
馬単⑤-29,230円(38人気) 3連複②-⑦-159,100円(32人気) 3連単⑤-②-⑦68,610円(229人気)

馬単15-2 9,230円(38人気) 3連複2-7-15 9,100円(32人気) 3連単15-2-7 68,610円(229人気)
5重勝7-4-1-8-15 2,653,610円(194票) 対象競走: 東京9R / 京都10R / 東京10R / 京都

5重勝⑦④⑯⑧⑯2,653,610円(194票) 対象競走: 東京9R/京都10R/東京10R/京都11R/東京11R

ラヴァンダ *Lavanda*

牝 黒鹿毛 2021.3.10生
北海道新冠町 森永聰氏生産
馬主・森永聰氏 栗東・中村直也厩舎
馬名意味・ラベンダー(伊)

ファーガーズプロスペクトUSA系 F3-d		
シリバーステート 青鹿毛 2013	ディープインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘAIRE
	シリヴァースカヤUSA 黒鹿毛 2001	Silver Hawk Boubeskia
ゴッドバイレーツ 鹿毛 2014	ベーカバドFR 鹿毛 2007	Cape Cross Behkara
	ゴッドインチーフ 芦毛 1996	コマンダーインチーフGB ファーガーズプロスペクトUSA

5代までのインブリード: Roberto S 4×M5 Hail to Reason S 5×S 5
Lyphard S 5×M5 Danzig M 5×M 5

INTERVIEW

森永聰氏(生産者)

とても嬉しいです

重賞制覇が簡単なことではないとよく分かっているのでとても嬉しいです。初仔なので細くて華奢な馬でしたが順調に育ち、3歳時は牝馬クラシックに出走できるほどの成績。うちぐらいの規模の牧場からこんな馬が出たのは凄いことだと思っていましたが、中村調教師や岩田望来騎手はもっと上にいける馬だと評価してくださいました。今後も無事に走ってほしいです。



K.Miura

昨年まで「アイルランドトロフィー府中牝馬S」として行われてきた牝馬重賞は、今年から「アイルランドトロフィーと府中牝馬S」に分離。マーメイドSの後継として6月へ移設された後者に対し、前者は昨年までの実施条件を引き継ぐ新設重賞と位置付けられた。重賞2着6回の実績を持つ1勝馬ポンドガール、福島牝馬Sの覇者アドマイヤマツリ、府中牝馬Sに続く重賞連勝を狙うセキトバイーストが1～3番人気の支持を集めたレースは、4番人気のラヴァンダが快勝。充実期を迎えた4歳牝馬が重賞初制覇を果たし、初代の優勝馬に名を刻んだ。

昨年から軽快なダッシュで飛び出の最終枠から、楽な手応えで直線に向いたアドマイヤマツリは坂下から後続を突き放しにかかるものの、残り200m地点を過ぎて失速。好位で脚を溜めていたアーノゴラブラックとカナーテープ、外から伸びてきたラヴァンダがそこへ襲い掛かる。後方から追い込んだライラックも3頭に迫ってきたが、ラヴァンダは一枚上の決め手を發揮。横一線の争いから抜け出して勝負を決めた。

シリバーステート産駒の本馬は3歳時、昨年、フローラSで2着に食い込み、オーフスに出走。このときは壁に跳ね返された(11着)ものの、秋華賞では4着と氣を吐いた。今年も3勝クラスから格上挑戦した阪神牝馬Sで3着、府中牝馬Sも3着と好走を重ねる半面、自己条件ではなかなか勝ち切れないレースが続いたが、前走の仲秋Sで2歳11月の未勝利戦以来となる2勝目をマーク。弾みをつけて挑んだ重賞も連勝し、着実な地力の強化

父シリバーステート

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央5戦4勝(垂水S、オーストラリアトロフィー、紫菊賞)、18年から供用
〔代表産駒〕エイアン(ニュージーランドトロフィーGII)、ラヴァンダ(本馬)、セイウンハーテス(エプソムC GIII、七夕賞GIII)、ウォーターナビレラ(ファンタジースGIII、桜花賞GII 2着)、阪神ジュベナイルフィリーズG1 3着)、ランソフカオス(チャーチルダウンズC GIII、朝日杯フューチュリティS GIII 3着)、リカンカブル(中山金杯GIII)、ショウナンバッハット(札幌日経オープン・L、若葉S・L)、バトルボーン(メトロポリタンS・L)、セッション(京都金杯GIII 2着)、アーリントンC GIII 2着)、コムストックロード(葵S GIII 2着)、カルロヴェローチェ(アルコンS GIII 2着)、メタルスピード(スプリングS GIII 3着)、シリヴァーデュク(サウジアラビアロイヤルC GIII 3着)

母ゴッドバイレーツ

北海道新冠町 森永聰氏生産 中央6戦0勝、地方30戦7勝

ラヴァンダ 本馬(21 牝父シリバーステート)中央16戦3勝(アイルランドトロフィーGII、仲秋S、フローラS GII 2着、阪神牝馬S GII 3着、府中牝馬S GIII 3着)獲得総賞金164,490,000円
デイルブラン(22 牝父ヘニーヒューズUSA)中央1戦0勝、地方8戦1勝(23 牝父レイディオロ)
トラベルメモリーズ(24 牝父ヘニーヒューズUSA)
(25 牝父シリバーステート)

祖母ゴッドインチーフ

北海道新冠町 森永正志氏生産 中央3勝(エルフィンS 0f、ききょうS 0f、チューリップ賞GIII 2着)、ファンタジーS GIII 2着、阪神3歳牝馬S GIII 3着、桜花賞GIII 4着)、14年用途変更

ゴッドスマイルユー(03 牝父エルコンドルパサーUSA)中央3勝(伊吹山特別)
ゴッドビラブドミー(04 牝父ブライアンズタイムUSA)中央0勝、地方7勝
ミューチャリー(JBCクラシックJpn I、白山大賞典Jpn III 2着、ジャパンダービーJpn I 3着、NAR年度代表馬)の母
オメガカリビアン(05 牝父フレンチデピュティUSA)不出走、オヤコダカ(兵庫ジュニアグランプリJpn II 2着)の母
ゴッドバイレーツ(14 前出)

曾祖母ファーガーズプロスペクトUSA

北米1勝、95年輸入、09年死亡、ヌーヴォレコルト(オーフスG1)の祖母、イングランドアイズGB (奥)(小倉記念GIII)、セナスタイル (奥)(ローズS GII 3着)の曾祖母

昨年まで「アイルランドトロフィー府中牝馬S」として行われてきた牝馬重賞は、今年から「アイルランドトロフィーと府中牝馬S」に分離。マーメイドSの後継として6月へ移設された後者に対し、前者は昨年までの実施条件を引き継ぐ新設重賞と位置付けられた。重賞2着6回の実績を持つ1勝馬ポンドガール、福島牝馬Sの覇者アドマイヤマツリ、府中牝馬Sに続く重賞連勝を狙うセキトバイーストが1～3番人気の支持を集めたレースは、4番人気のラヴァンダが快勝。充実期を迎えた4歳牝馬が重賞初制覇を果たし、初代の優勝馬に名を刻んだ。

昨年から軽快なダッシュで飛び出の最終枠から、楽な手応えで直線に向いたアドマイヤマツリは坂下から後続を突き放しにかかるものの、残り200m地点を過ぎて失速。好位で脚を溜めていたアーノゴラブラックとカナーテープ、外から伸びてきたラヴァンダがそこへ襲い掛かる。後方から追い込んだライラックも3頭に迫ってきたが、ラヴァンダは一枚上の決め手を發揮。横一線の争いから抜け出して勝負を決めた。

シリバーステート産駒の本馬は3歳時、昨年、フローラSで2着に食い込み、オーフスに出走。このときは壁に跳ね返された(11着)ものの、秋華賞では4着と氣を吐いた。今年も3勝クラスから格上挑戦した阪神牝馬Sで3着、府中牝馬Sも3着と好走を重ねる半面、自己条件ではなかなか勝ち切れないレースが続いたが、前走の仲秋Sで2歳11月の未勝利戦以来となる2勝目をマーク。弾みをつけて挑んだ重賞も連勝し、着実な地力の強化

し、逃げの手に出たアドマイヤマツリが落着いたラップを刻んでレースを先導。セキトバイーストはこれを見ながら3番手の外で流れに乗る。ボンドガールは中団馬群の真っ只中で折り合いで専念。外枠(8枠15番)からリズムを重視して運び、自然体で徐々にポジションを上げたラヴァンダと若田望来騎手のコンビは、3コーナーでその外を取り付いた。

充実期を迎えた4歳牝馬が重賞初制覇